

**① 指導案****第6学年 国語科学習指導案**

1. 単元名 短歌・俳句の世界～言葉のひびきを味わおう～

2. 単元の目標

- ・楽しんで俳句を作り、句会で感想を交流しようとする **【国語への関心・意欲・態度】**
- ・短歌や俳句の優れた表現を味わう **【読むこと ウ】**
- ・短歌や俳句を読み、言葉の響きや文語の調子に親しむ **【言語についての知識・理解・技能 エ(ア)】**

3. 指導にあたって

**【教材観】**

短歌や俳句は日本の伝統的な文化の中でも古くから人々の生活に根づき、親しまれてきた。そのため子どもたちにとって七五調のリズムは日常生活の中でもふれる機会が多く、知らず知らずのうちに七語調のリズムを身につけている。

こうしたリズムは子どもたちの思考や表現にも大きな影響を与えている。ある研究によると日本の子どもたちはアメリカの子どもたちに比べて発話を簡潔にまとめる傾向があり、ある質問に対して三つの文で返答した割合が高かったという。つまり、日本の子どもたちは短歌や俳句のリズムに日々接することで、そのリズムや型を思考の型として身につけているということである。

こうした型を学習の中で意図的に取り上げて学習することは、子どもたちの思考力を育てるために有効であると考えられる。短歌や俳句のような、ある限られた型の中で自分の思いや考えを表現するために言葉を吟味、選択していく思考や、限られた情報の中から整合性を見出し、作者の意図を推論していく作業は、論理力や創造力などを育て、PISA型の読解力にも対応できるのではないかと考える。

**【児童観】**

明るく、活動的で、学習に対する興味や関心が旺盛である。反面、聞く力や他者と協力して授業を創り上げるという意識が薄い。国語に限らず、他者の意見を聞いて、自分の意見と比べながらより良い考えを見出していくことの大切さを教師が語ってきた。また、授業の中で他者の意見を受けながら自分の意見を言うことを指導し、他者をつながることを感じさせるように取り組んできた。このことが、一人一人の思考や思いや感情をつなぎ、ひいては学級としての絆へとつながってくれればと考えている。

**【本単元で育てる「活用力」】**

本単元では、提示された作品を七五調のリズムの作品であると判断し、隠されている部分の音を推測することで以前の学習や知識を生かすことができる場を設定する。このことで既習の知識を未知の学習に生かしていくことが大事であるという意識を持たせ、メタ認知能力を育てていきたい。また、いくつかの情報を統合的につなぎ、作品の表現している世界を論理的に描き出せるようにしていきたい。さらに、作品どうしを比べ、共通点を見つけたり、色の表すイメージを考えたりすることで抽象と具体を関連させ情報に自分の考えを加味させながら批判的思考を育てていきたい。

4. 指導計画（6時間）活用力育成のプロセス

過程	小単元	目標	学習活動	評価規準と評価方法	評価の観点				
					関意	話聞	書く	読む	言語
つかむ①	第一次 短歌の鑑賞	・短歌の特徴を理解する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">短歌の特徴を理解しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>導入の2首の短歌について考えることで短歌の特徴を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌が31音からなる短い詩であることや感情表現・感性の鋭さに気づく。 (ノート・発言)</li> </ul>					○
		・短歌の中の情報を論理的に、関連させ情景を読み取ったり象徴性を考えたりできる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">短歌の情景を読み取ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 p35 の短歌から斎藤茂吉の「赤光」の一首「みちのくの～」を鑑賞し、情報を論理的に関連させ、短歌で表現されている情景を読み取る。また、関連の短歌を読み比べながら色の象徴性について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌の中の情報を論理的に関連させ、情景を読み取ったり色についての象徴性を考えたりしている。 (ノート・発言)</li> </ul>				○	
広げる②	第二次 俳句の鑑賞	・俳句の特徴を理解する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">俳句の特徴を理解しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>導入の2句の俳句について考えることで俳句の特徴を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>俳句が17音からなる世界で最も短い詩であることや季語を盛り込みながら情景を描く巧みさに気づく。 (ノート・発言)</li> </ul>					○
		・俳句の中の情報を論理的に、関連させ情景を読み取ったり象徴性を考えたりできる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">俳句の情景を読み取ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 p 35 で紹介されている俳句から中村草田男の「万緑の～」を鑑賞し、情報を論理的に関連させ、俳句で表現されている情景を読み取る。また、使われている色を対比させながら色の象徴性について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>俳句の中の情報を論理的に、関連させ情景を読み取ったり色についての象徴性を考えたりしている。 (ノート・発言)</li> </ul>				○	
活かす②	第三次 句会	・「取り合わせ」の技法を使い、俳句を楽しんで作る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">俳句を作ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>「取り合わせ」の技法で俳句を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>俳句を楽しんで作ろうとしている。 (観察)</li> <li>俳句を「取り合わせ」の技法を使って作っている。 (ノート・観察)</li> </ul>	○				○
		・句会を楽しみ、感想などを交流することができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">句会をしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>作った俳句の中から自分が良いと思う俳句を選ぶ。また、句会の感想や友だちから学んだことなどを交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が良いと思う俳句を選ぼうとしている。 (発表・観察)</li> <li>句会の感想や、友だちから学んだことなどを発表できる。 (発表・観察)</li> </ul>	○				○

5. 本時の学習（第一次の2時）

(1) 目標

短歌の中の情報を論理的に関連させ、情景を読み取ったり象徴性を考えたりできる。

(2) 評価規準

短歌の中の情報を論理的に関連させ、情景を読み取ったり色についての象徴性を考えたりしている。

【読むこと ウ】

(3) 展開

過程	学習活動と予想される児童の反応	留意点（・） 評価◎ 支援（◇）
共有 5分	<p>1. 短歌を視写する みちのくの母の□を一目見ん一目見んとぞただにいそげる 齊藤茂吉</p> <p>2. 音読する ・□の中は自由な読み方で読ませる。</p> <p>3. わからない言葉を調べる ○「みちのく」とは何ですか？ ・東北のこと ・陸奥と書く ・道の奥の意味がある</p> <p>4. □の中に何音のどんな言葉が入るか予想する ○□の中には言葉が入るけど、何音の言葉かな？ 活用すべき知識・技能 ○何という言葉が入るかな？</p> <p>5. 課題を知る。 短歌の情景を読み取ろう</p>	<p>・教師と同じ速さで写すことを指示し、集中力や学習へ積極的に取り組む姿勢をつくる。</p> <p>・わからない言葉は教師から調べることを指示される前に辞書を引く姿勢を意識させる。</p> <p>・短歌の五七調を意識して□の中の音が3音であることに気づかせる。</p>
表出 5分	<p>6. この短歌を読んで気づきを書き、意見交流の準備をする。 ○この短歌を読んで思ったこと、考えたことを書いて下さい。</p>	<p>・単元の導入で学習した2首の短歌の読み取りを活かしながら多様な気づきを書く。</p>
つないで活かす 30	<p>7. 母について考える ○母について発表してください。 ・お母さんは東北にいる ・病気ではないのか ・病気の症状は重いのではないか</p> <p>8. 話者（作者）について考える ○話者は今、何してるの？ ・母の所へ向かっている ・車を運転している ・汽車にのっている</p>	<p>◎短歌の情報を論理的に関連させ、情景を読み取ったり色についての象徴性を考えたりしている。（ノート・発言）</p> <p>◇母の状況を考えた理由を聞くことで情報の関連づけを意識させる。</p> <p>・母の状況と関連させながら話者の状況を読み取る。</p>

<p>分 つ な い で 活 か す 30 分</p>	<p>○話者は今どこに住んでいるのですか。 ・東北 ・田舎 ・都会 ・東京 ・母のいる場所の近く ・母の住んでいる所から遠い所</p> <p>9. 母についての他の短歌を読み、だいたいの意味を知る。</p> <p>①死に近き母の添い寝のしんしんと遠田のかはづ天に聞こゆる ②のど赤き玄鳥ふたつ屋梁にいて足乳根の母は死にたまふなり ③星のみる夜ぞらのもとに赤々とははそはの母は燃えゆきにけり ④寂しさに堪えて分け入る山かげに黒々と通草の花ちりにけり</p> <p>10. 短歌に使われている色について考える ○これらの短歌には色が出てきます。何色がありますか？ ・赤 ・黒 ○①の歌の中には色は出てこないのでしょうか？ ○死を表す色は黒でしょうか、赤でしょうか？ ・お葬式の時は黒の色が多いから ・赤いという言葉が出てきたときに母は死んだから ・通草の花が散るのは死ぬのと同じで、その花が黒いから</p>	<p>・考えを大きく2つに集約し検討させる。</p> <p>・短歌を短冊に書いておき、視写の時間を減らす。 ・細かい読み取りはさけ、教師が解説することで子どもたちの読み取りを助ける。</p> <p>・①の短歌は表現上、色は書かれていないが情景を想像させ、色の存在に気づかせる。 ◎関連の短歌を読み比べながら色の象徴性を考えることができる。 ◇意見が持てない場合は、ペアやグループで友だちの意見を聴く場を持つ。</p>
<p>ま と め る 5 分</p>	<p>11. 学習のまとめをノートに書く ○今日学んだ短歌の情景を母や話者の状況、色などにふれながらまとめてください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「みちのくの～」の短歌によまれている母は病気だと思う。それは、「いのちを一目見ん」という言葉から母が死にそう で…… また、死を表す色は黒だと思う。それは、……</p> </div>	<p>・学習した二つの内容の要点がわかるようにまとめる。 結論+理由の文章構成を中に取り入れるように意識させる。</p>

**【思考力】** 作品の中の情報を関連させながら内容を読み取り、それらの情報を論理的にまとめることができる。

**【判断力】** いくつかの作品の中に共通点や相違点を見つけながら考えをまとめることができる。

**【表現力】** 文章中から根拠をあげながら発表したり、討論したりできる。

## ② 授業記録

### ア 模擬授業で指摘されたこと

- ・短歌の情景を読み取る場面と色の象徴を考える場面で授業が切れている。この二つをつなぐには、授業のまとめに入る前に再度、最初の短歌に戻り、色について考えることを指摘された。

### イ 授業コメント

授 業 内 容	授 業 コ メ ン ト
<p>〔共有〕</p> <p>T：先生の書くのをノートに写してもらいます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>みちのくの母の□を一目見ん一目見んとぞただにいそげる 斎藤茂吉</p> </div> <p>C：はい（書き終えた子から返事をして手を挙げる）</p> <p>T：この文を大きな声で2回読んだら座ってください。 ここは（□）好きに読んで下さい。</p> <p>C：（それぞれが2回読んで座っていく）</p> <p>T：この人は何という人？</p> <p>C：しげきち？</p> <p>T：茂吉（もきち）といいます。この短歌の中でわからない言葉はありますか。</p> <p>C：一目見ん</p> <p>C：みちのく</p> <p>C：ただにいそげる</p> <p>T：「みちのく」を調べてみてください。</p> <p>C：（辞書を調べて）この短歌書いてあります。</p> <p>T：みないでください。（笑い）では、みちのくとは何て書いてありますか？</p> <p>C：東北地方</p> <p>T：東北地方を調べてみてください</p> <p>C：宮城、福島、青森、岩手</p> <p>C：秋田と山形もある</p> <p>C：書いてないよ</p> <p>T：（板書しながら） 昔は、4県で、今は6県になったのかも しれませんね。 次は、「ただに」を調べてみてください。</p> <p>C：ないです。</p> <p>T：ひたすらということ です。（板書） さて、この四角（□）何音の言葉が入りそうですか。</p> <p>C：2音</p> <p>C：3音</p> <p>C：3音</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-bottom: 20px;"> <p>クラス全員が主体的に意欲を持って教材や課題に向き合うためには、ある程度の緊張感が必要である。そのためには、書く、写すという作業をする時も早く、丁寧にと意識を持たせるようにする。また、互いにつながる前提として他者に反応するということも必要になってくる。そうした姿勢の育成として返事をするを習慣化する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <p>課題解決の前提として、意味のわからない言葉を調べる活動を行う。この活動も児童自らが教師に指示されなくとも動けるようにしたい。数人は指示がなくとも調べるようにはなっているが十分ではない。また、辞書を引いて調べた意味の中にさらにわからない言葉が出てきた時は、関連して調べる姿勢も身につけさせたい。そうしたことができるように辞書日記という活動にも取り組ませている。ある言葉の意味を予想し日記に書き、実際に辞書を引いて調べた内容を写す。そして、その調べた内容の中でさらにわからない言葉を調べて内容を写す。最後に調べた感想を書くという日記である。</p> </div>



T: なぜ、3音ですか？  
 C: 5、7、5、7、7  
 T: え！ これで3音？  
 C: 7-4で3や  
 T: 5、7、5、7、7って何だ？  
 C: 短歌！  
 T: 三つの音が入りそうだけど、何が入りそう？隣同士相談  
 はい、どうぞ  
 C: (隣同士相談する)  
 T: 何が入りそうですか？  
 C: 笑顔  
 C: 姿  
 C: 命  
 T: なぜ、命だと思いましたか？  
 C: 笑顔や姿は見える  
 T: 四角には命が入ります。命を入れて読んで見ましょう。  
 C: 二回読む (二回目は区切りを確認してから読む)  
 T: 課題を書きますから写してください。写したら赤で囲みます。

この短歌を読み取ろう

課題を解決するためには今までに身につけた知識や学習方法を新たな課題にも適用していこうとする意識が必要である。こうした意識は課題を解決する前の情報を取り出したり学習課題をつくる共有の段階など、あらゆる場面で位置づけ、子どもたちに習慣化していかなければならないと考える。そうしたことが課題解決の意欲や準備につながると考えている。

児童に時間感覚を持たせることは主体的な学習姿勢や意欲につながる。

### 〔表出〕

T: この短歌を読んで思ったこと、考えたことをノートに書きます。何分ほしい？  
 C: 6分  
 C: 3分  
 T: 5分でいきます。  
 C: (ノート作業をする)

意見と理由、特に理由をしっかりと書くようにさせている。また、多様な意見、発想を生み出すため、できるだけ多く、長く書くことを勧める。

### 〔つないで活かす〕

T: はい、ストップです。起立、ぐるぐるします。  
 C: ぐるぐる回る～ (座席から立って自由に動く)  
 T: 二人組、用意スタート。  
 C: (任意の二人組になり短歌についてペア対話を始める。)  
 T: はい、ストップ。真ん中に集まって。  
 C: (黒板前に集まる)  
 T: では、発表してください。  
 C: 話者はどうやって・・・・・・・・  
 C: 東北地方に住んでいる母の命につながっている。  
 C: みちのくに住んでいる母は病気やと思う。  
 C: 東北のどの県やろ？  
 C: この斎藤茂吉さんは何でみちのくって言ったんやろ？  
 C: 昔そう言ったんじゃないが。  
 C: あ～、そっか。  
 C: 話者はどこに住んどりんろ？



ペア対話で思う存分考えを語り合うことで、学習に対する意欲が高まり、一斉学習でも子ども同士がつながる。そのため、自然に課題解決に必要なポイントに話し合いが焦点化する。互いの思いを受け止め合っておくことは、個々の意欲をつなぎ、課題とつなぐために重要なことである。

C : 「一目見ん」ってよくわからん？  
C : 見たいんじゃないが？  
C : 母おもいやな。  
C : 何を伝えようとしているのかよくわからん。  
C : 斎藤さんは母と離れて過ごしている。  
C : 母が死んで急いで葬式に行く。

T : 母は死んだのですか。  
C : 「ただに」って「ひたすら」って意味やし、お母さんが病気で死にそうなんだと思う。

T : お母さんは、どんな状態なの？  
C : まだ、死んでない。  
T : 病気の症状は重いのか軽いのか？  
C : 重い。  
C : 命がなくなる前に一目会いたい。顔を見たい。

T : 話者はどこにいるの？  
C : 東京。  
C : 上京しとる。  
T : お母さんはどこにいるの？  
C : 東北。

T : 話者は東北の近くにいるの？  
C : 近くにいたら急がんでいいから、違う。  
C : 離れた所に住んでいる。

T : どうやってみちのくへ向かっているの？  
C : 電車。  
C : 汽車。  
C : 自転車。  
C : 車。  
C : 馬。

T : さて、今話し合ったことは、答えを知ることができます。それは、茂吉さんは、危篤のお母さんについての短歌をたくさんつくっているのです。その中には、次のような短歌があります。

たまゆらに眠りしかなや走りたる汽車ぬちにして眠りしかなや

走っている汽車の中でほんの一瞬眠ったんだなあということを歌った歌ですが、この歌から話者が何にのっていたかがわかります。何？

C : 汽車。

T : 次にこういう歌もあります。

うちひさす都の夜にともる灯のあかきを見つところ落ちぬず

都の夜にともる赤い灯りを見ながら、なんだか心が落ち着かないという歌ですが、ここから話者がどこにいたかがわかります。どこですか。

自由な意見の発表の中から課題に迫るポイントとなる意見を見取ることが必要である。この場合は、母の状況が病気であるという主流の意見に対して母は亡くなっているという対立する意見が出された。児童の力がついてきていけばこうした意見に反応し、焦点化していけるだろうが、今回はその力が十分ではないと考え、教師が拾い上げ、全体に切り返す役を担った。



子どもたちの話し合いでは、教師は子どもたちの前から一步退き、話し合いを子どもたちにまかせる。子どもを「学びの主体者」として位置づけ、学びとは本来、教師から教えられるものではなく、自らが主体的に獲得していくものであるという意識を育てることを大切に考えている。

一般的に国語の嫌いな理由の中に見られるものに「答えがはっきりしない」というものがある。今回の場合は連歌であることで、母や話者の状況を他の歌からはっきりさせることができる。話し合ったことの結果が明らかになり、その意義が意識されることはつながる授業を支える学ぶ意欲、つながろうとする意欲を生み出していくと考える。



C：京都。

T：京都ではなく、この都は？

C：東京。

T：さて、この他にもたくさんの歌がありますが、その中からお母さんの死についての歌を四つ紹介します。

- ①死に近き母の添い寝のしんしんと遠田のかはづ天に聞こゆる
- ②のど赤き玄鳥ふたつ屋梁にいて足乳根の母は死にたまふなり
- ③星のある夜ぞらのもとに赤々とほはそはの母は燃えゆきにけり
- ④寂しさに堪えて分け入る山かげに黒々と通草の花ちりにけり

(教師は一首ずつ短歌が書いてある模造紙を貼っていき、簡単に短歌の意味を説明する。)

T：これらの短歌の中には色が出てきます。何色が出てきていますか。

C：赤。

C：黒。

C：白。

T：(①の短歌を指して) ここに色を表す言葉はないけれど、色は出てこないのでしょうか？

C：黒が出てくる。夜だから。

T：このように茂吉さんは、歌をつくるときにその時の気持ちや様子を言葉だけではなく、色で表現しようとしたのです。では、茂吉さんがお母さんの死を表そうとした色は黒でしょうか赤でしょうか。ノートに結論と理由を書いて下さい。

(板書) 死を表すのは黒か赤か？

C：(ノート作業)

T：書けた人は机を内側に向けて。まだ、ノートが途中の人は頭の中のものを発表してください。それでは、どうぞ。

C：ぼくは、黒やと思うげんて。

C：(多数) なんで？

C：残酷な色だから。似合うと思う。

C：(多数) え～。

C：ぼくも、同じで黒。黒は暗い感じで赤は明るい感じがする。葬式には黒い服を着るから。

C：A君と同じで葬式の時、黒い服を着るし……。

C：私は両方なんだけど。葬式の中でお母さんの体を燃やしたのは夜なので黒だと思う。でも、火は赤なので死を表すのは赤と黒の両方だと思う。

C：私は、赤やっただけど両方に変わります。火は赤で、お母さんが亡くなったら目を閉じて真っ暗になるから黒。だから両方に変わる。

C：私は赤だったけど黒に変わります。A君のを聞いて黒だと思えます。

「赤光」という名からもわかるように斎藤茂吉の歌には赤などの色が象徴的に使われている。色で感情などを表すことを学ぶことは、この単元で学ぶ俳句「万緑の中や吾子の齒生え初むる」を学習する時や、二学期教材の「やまなし」を学習する時に活用されるはずである。教材や時間、場面を変えながら同一の観点、視点を適用していくことが転化できる学力を育て、活用力を育成すると考える。



つながる授業では、課題や他者に呼びかけたり、反応したりする呼応の関係や応答関係が大切になる。こうしたことは、単に教材の系統性や論理性だけで組み立てることで育むことができない。大切な仲間の意見だから聞きたい。仲間の思いがわからないから問いかけるという対話の姿勢が必要なのである。「なんで？」と問いかけ、「え～」と反応し、仲間の意見を受けて、つながって発表する。そうした応答関係の中での真剣な学びが活用力を育成する。



C：私は、赤だと思います。②と③がお母さんが死んだところだと思う。(多数が「うん!」とうなずく)そこには赤が使っているから赤だと思う。

C：ぼくは、黒です。なんか天とか通草の花とか黒がバックというか、印象的に残っているから。

C：Bちゃんは赤が入っているって言ったけど4つともに黒が入っているから、やっぱり死を表すのは黒だと思う。

C：反対。右(①と②)と左(③と④)は死ぬ前と死んだ後だからずれている。

C：死んでから1日後ならあまり変わらないんじゃない……。

C：俺は、赤だと思います。人の血の色とかは赤で、とても残酷な色だと思うから。それにA君は夜空が黒だといったけど、星には赤いものがある。

C：でも夜空に多い色は黒だから……。

C：黒から赤に変わります。問題は死を表す色はというのだから、燃やすときは赤だし、死んだ時の2つめの短歌に赤が使われている。

C：俺、先に言っている？C君は血の色とか言っているけど、燃やしたら血は出ないし燃え尽きた後、灰になるから黒だと思う。

C：赤い星は、もう少しで死ぬっていうから……。

C：親といっしょに過ごしたのは夜が多かったと思うから黒のイメージ。

C：でも、死んだ時やよ。

C：私は、赤なんですけど、明るい感じがするけど、火の色が赤だから。

C：俺は黒ですけど、一番左に(④の短歌)「通草の花ちりにけり」って書いてあるけど、通草の花って母だと思ってんて。「ちりにけり」って死んだ感じがするから通草の花の色の黒が死を表すんだと思う。

T 最後に、はじめの短歌に色をつけるとしたら何色？

C：黄色

模擬授業で指摘されたこと

C：黒

C：赤

### 〔まとめ〕

T：その色にした理由を聞いていきたいんだけど、時間が来てしまったので、今日はここまでにしたいと思います。課題のまとめを後で書いておいてください。終わります。

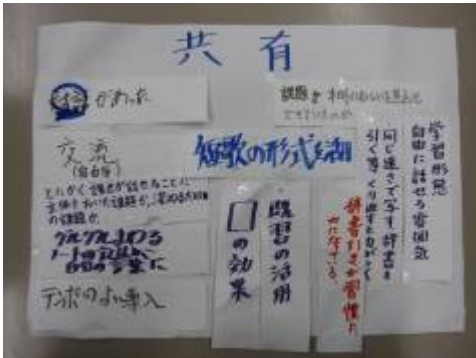
課題を二者択一的にしばり話し合いを討論的・探究的に行うことは、児童の学習を主体的にし、論理的思考力や判断力、表現力を総合的に伸ばすと考える。つまり活用力を育成する良い場であると考え。ただ、大切なのは他者の意見を聞き、自分の考えを修正したり、再構築したりしてより良い考えにしていこうとする姿勢である。単に反対するだけではだめで、互いの考えを交流することでより良い自分になることや仲間の成長に関与できた喜びを知っていくことである。

模擬授業の検討会で指摘された「短歌の読み取りと色の象徴性の所で授業が切れる」という問題を解決するためにここで、最初の短歌にもどり、「この短歌に色をつけるとしたら何色か？」と問うた。このことにより切れた内容が一つにつながったことと、色の象徴性の理解の評価にもなり有効であった。ただ、時間的には苦しかった。

「つないで活かす」が長引き「まとめ」をすることができなかつた。児童の実態の把握と学習計画立案の甘さが原因である。

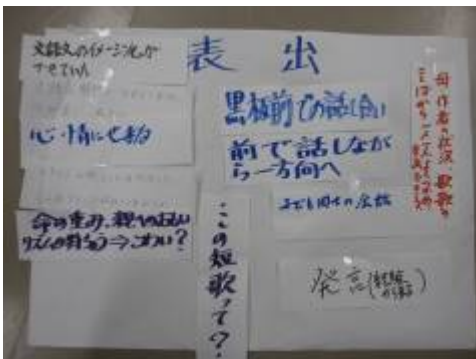
## ウ 授業整理会から

### 【共有では・・・】



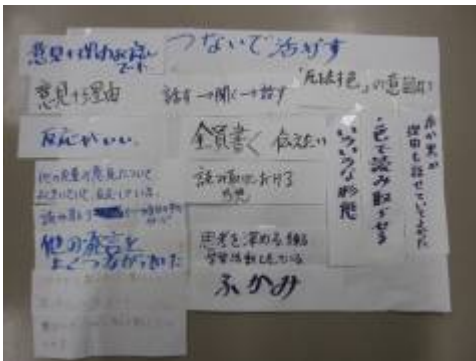
- ・課題が見つないで活かすまでつながる課題だったか？漠然としているのでは？
- ・□が効果的であった。子どもたちの興味やイメージを喚起していた。また、既習の知識を活用し三音という数をうまく判断していた。
- ・辞書が使いこなされていた。また、視写など文字を写す訓練などもされていて力がついている。

### 【表出では・・・】



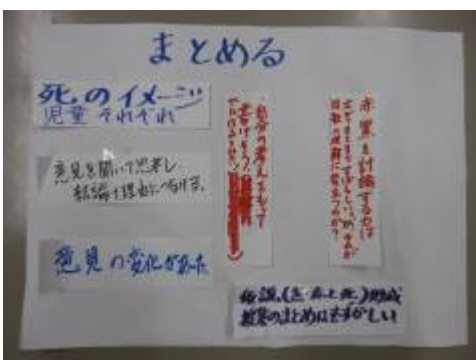
- ・文語文のイメージ化ができていた。導入において文語についてあまりはまりすぎないように考慮していたので、イメージを中心にして子どもたちは自分の考えを表出していた。
- ・「いのちの重み」や死、母に対する心情などは、子どもたちはイメージしながら表出できていたかは疑問である。
- ・気持ちの部分や心情によりそうという部分では、子どもたちは、イメージして表出できていたのだろうか。

### 【つないで活かすでは・・・】



- ・対話の時には、ノートを見ないで話していた。自分の思いを話せるので、相手とのやり取りの中から自分や相手も思いもよらない考えが生み出される偶然性があり、意欲や発想が引き出されていた。
- ・この単元でどんな力をつけていくのかをはっきりさせていくべきだと思う。イメージを広げるのか。深めていくのか。
- ・黒板の前に集まって全体で話し合っているのだが、一つのグループ学習のようで子どもたちで学習の方向性を決めていた。

### 【まとめるでは・・・】



- ・意見+理由がまとめるヒントになった。
- ・経験がない死のイメージが今日の話し合いで共有できていた。それが、作者の心情にどのようなつながっていくのか・・・
- ・時間がなくなりましたが、まとめの部分をノートに書くことができればよかった。